

平成 21 年 6 月 14 日現在

研究種目：基盤研究（C）
 研究期間：2006-2008
 課題番号：18520240
 研究課題名（和文） カナダ・ケベック州における文化政策とパフォーミングアーツの発展
 研究課題名（英文） Cultural Politics and Development of Performing Arts in Quebec, Canada.
 研究代表者
 小畑 精和（OBATA YOSHIKAZU）
 明治大学 政治経済学部・教授
 研究者番号：30191969

研究成果の概要：シルク・ド・ソレイユを筆頭に、R.ルパージュの演劇、ラ・ラ・ラ・ヒューマン・ステップスなどのダンスなど近年隆盛を極めているケベックのパフォーミング・アーツを分析し、製作者（劇作家・演出家・俳優・パフォーマー）や受容者（観客・評論家）の観点からばかりでなく、政策や経営も含めた文化状況全体の中で、パフォーミング・アーツを考察した。

また、連邦政府の提唱するマルチカルチャリズムと、ケベック州政府が推進するインターカルチャリズムの比較を行った。

研究を通して、その発展の大きな要因として、ケベック州政府の文化政策があることを明らかにした。その成果の一端を昨秋の日本カナダ学会第33回年次研究大会（9月21日セッションⅢ，皇学館大学）で三人がそれぞれ発表した。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	1,500,000	0	1,500,000
2007年度	1,300,000	390,000	1,690,000
2008年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総計	3,300,000	540,000	3,840,000

研究分野：外国文学、文学一般（含文学論・比較文学）・西洋古典、仏語・仏文学

科研費の分科・細目：文学・ヨーロッパ語系文学

キーワード：ケベック、文化政策、パフォーミング・アーツ、マルチカルチャリズム、インターカルチャリズム

1. 研究開始当初の背景

研究参加者はそれぞれ以下のように、ケベックのパフォーミング・アーツと文化政策に

関心を寄せていた。

(1) 小畑は日本ケベック学会の会長、日本カナダ文学会の副会長であり、L. S. マルチネ

ルによるケベック演劇の日本での上演に協力し、吉原豊治や流山児祥ら演劇人とも交流を深めていた。

(2) 佐藤は日本カナダ文学会の会長であり、日本における「カナダ演劇祭」に再三協力し、T. ハイウェーやMMブーシャールの翻訳を手掛けていた。

(3) 曾田は文化政策に関して、自治体やNPO論を書いており、ケース・スタディとして、モントリオール市の調査を行っていた。

2. 研究の目的

近年、言葉を重視したミシェル・トランブレやミシェル・マルク・ブーシャールらの伝統的演劇に加え、サーカスのイメージを一新したシルク・デュ・ソレイユ、ハイテクを駆使する演出家ロベール・ルパージュ率いるエクス・マキナ、モダン・ダンスで評価の高いマリー・シュイナル・カンパニーなど、カナダ・ケベック州発の様々な舞台芸術集団が世界各地で活発に公演を行なっている。そうしたパフォーマンス・アーツを分析し、州政府の文化政策との関連から考察を加え、それらの舞台芸術がなぜカナダ・ケベック州で隆盛してきたのかを明らかにする。

3. 研究の方法

(1) モントリオール大学、UQA、マギール大学、ラヴァール大学などの研究機関、文化省やモントリオール市役所などの省庁を訪れ、資料収集をし、インタビューを行った。

(2) ケベック劇作家センター(CEAD)を訪れ、資料収集するとともに、演劇人に紹介してもらい、MMブーシャール、Mペルチエ、Cフレシエットらに直接インタビューを行った。

(3) 収集した資料、インタビュー結果の分析を行い、その成果の一端を日本カナダ学会

で発表した。

4. 研究成果

(1) ケベック州は、文化政策を重視しており、政府の関与の度合いが高い。文化関連予算(2006年度)を比較すると、人口がはるかに多いオンタリオ州(1267万人、2006年)で3億5047万カナダ・ドルであるのに対して、ケベック州(763万人、2006年)では5億9120万カナダ・ドルに及んでいる。

(2) ケベックでは、連邦政府が掲げるマルチカルチャリズムに対して、「フランス語社会である」ことを核として、他の文化との共生を目指すインターカルチャリズムの実践が図られている。これが、文化政策重視の大きな要因になっている。

(3) パフォーミング・アーツ分野においては、プロフェッショナルの劇団やダンスカンパニーに対しても支援をするのは政府の当然の役割だと考えられている。ケベックの芸術団体の活動経費の約半分は政府や政府関連機関からの公的助成金である。

(4) ケベック州政府は各地に「文化の家」(La Maison de la Culture)という施設を造り、多くの地域住民は、そこでプロのパフォーミング・アーツを無料で鑑賞することができる。これも住民に対する文化活動の提供をすべて市場の働きに委ねてしまうのではなく、政府がそのことに責任を持つという考え方に基づくものである。

(5) ケベックにおいて、演劇人や団体はその活動が直接助成されるのみならず、その作品の「流通」も政府によって支援されている。特筆すべきは、CINARS(国際舞台芸術

見本市) であろう。この国際見本市は 1984 年以來、2 年に一度モントリオールで開催され、連邦政府とケベック州政府から助成を受け、官民の協力の下で運営され、毎回世界中から多くのプロモーターが集まっている。

(6) ケベックでは、フェスティバルも盛んに開催され、文化資源の集積に貢献している。「モントリオール映画祭」「モントリオール・ジャズ・フェスティバル」、「笑いのフェスティバル」、「国際コンテンポラリー・ダンス・フェスティバル (FIND)」、「アメリカ大陸演劇祭 (FTA)」などがある。

(7) ケベックにおいて 1980 年代は新たな演劇動向が生まれた時代であった。その背景には、まず、1980 年に行われた州民投票で、主権連合派が敗れたことがある。脱政治化が進み、アイデンティティが新たに問い直されることになる。他方、視聴覚機器や新たなテクノロジーの進歩により、演劇界は「見世物」的要素を増してもいく。

視覚性、身体性を重視した、ルパージュの演劇や、ダンスやサーカスがかくして脚光を浴びていくことになる。それはフランス語を核としながら、言語の壁を越えていこうとする試みでもあろう。

(8) 日本におけるカナダ演劇はまだまだマイナーな存在であるとは言え、流山児祥や宮本亜門らの関心を引き、徐々に上演数も増えている。その背景には、1994 年に始まった「カナダ演劇祭」がある。この演劇祭はカナダ大使館やケベック州政府事務所が協力・後援しており、その貢献は大きい。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者に

は下線)

[雑誌論文] (計 2 件)

①小畑精和「多文化主義の功罪」(「現代の理論」春号、明石書店、2008 年 3 月)P.82-89.
査読なし。

②小畑精和「マルチカルチャリズムとインターカルチャリズム」(「神奈川大学評論」、62 巻、2009 年 3 月) P.84-91.
査読あり。

[学会発表] (計 3 件)

①曾田修司「日本の自治体文化政策のモデルとしてのケベックの文化戦略ー文化投資と外部市場開拓との結合ー」日本カナダ学会第 33 回年次研究大会、2008 年 9 月 21 日、皇学館大学。

②佐藤アヤ子「日本における英語系カナダ演劇・仏語系カナダ演劇の受容」、日本カナダ学会第 33 回年次研究大会、2008 年 9 月 21 日、皇学館大学。

③小畑精和「1980 年代のケベック演劇」日本カナダ学会第 33 回年次研究大会、2008 年 9 月 21 日、皇学館大学。

[図書] (計 1 件)

①小畑精和、竹中豊編著『ケベックを知るための 54 章』(明石書店、2009 年 3 月)

[産業財産権]

○出願状況 (計 0 件)

○取得状況 (計 0 件)

[その他]

特になし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

小畑精和 (OBATA YOSHIKAZU)

明治大学・政治経済学部・教授

研究者番号：30191969

(2) 研究分担者

佐藤アヤ子 (SATO AYAKO)

明治学院大学・教養教育センター・教授

研究者番号：70139468

曾田修司 (SOTA SHUJI)

跡見学園女子大学・マネジメント学部・教授

研究者番号：90348160

(3) 連携研究者

なし